

(別紙)

令和3年度第2回八戸市青少年問題協議会の書面協議に  
おいて寄せられた御意見、御感想

委員及び幹事の皆様、貴重な御意見、御感想ありがとうございました。

(高橋会長)

- ・ オミクロン株の蔓延により青森県内でもまん延防止等重点措置の適用がなされるなど、地域での活動が危機に瀕しているように感じます。  
今後一日も早い収束を願いつつ、その日のために準備を進めたいと思います。

(千葉副会長)

- ・ 令和3年度は特に学校での活動が制限されました。一方、学校も工夫を凝らし、行事等を行ってきましたが、日常的活動(部活動や係活動、特別活動)が制限されたこと、それが長期間に渡ったことによる生徒のストレスは大きいと感じています。

(木村委員)

- ・ 昨年は少年の補導件数が減少しましたが、今年1月中は増加傾向にあり、粗暴行為が増えました。関係機関と連携し対応していきたいと思います。

(村岡委員)

- ・ 児童館を管理・運営している立場として、児童生徒の感染が判明した場合、感染拡大防止のため、関係機関との連携が大事だと感じています。

(工藤委員)

- ・ 急激に進展するICT社会、また、先行き不透明なこの時代において子供たちのコミュニケーションの在り方、やり方も急激に変化していると痛感しています。  
今を生きる子供たちには、正解のない問題に自分なりの答えを見出す力を地域コミュニティで養い、世界中のどこに居ても、故郷を想い、自分らしく輝く大人へと導けるよう活動していきます。

(小澤委員)

- ・ 令和3年度、当連合PTAはコロナバージョンではありますが、予定した活動は概ね実施しました。

(堀合委員)

- ・ 「家庭の日」について、以前は、校長会の申し合わせで、部活動は第1・第3日曜日が休止日となっていたので「家庭の日」を意識できたが、現在のガイドラインではそれがいないため、だんだん廃れてきたように感じます。

(上野委員)

- ・ 当会は社会を明るくする運動を中心に、青少年の犯罪・非行防止・保護・更生を願って活動を展開しています。学校を訪問し、犯罪予防や非行防止の話をしたり、社会を明るくする運動作文の募集をしたりして、学校と連携しています。令和3年度はコロナ禍の影響もあり、活動中止や訪問活動を縮小しました。

(若松委員)

- ・ 八戸市内には、コロナ禍でも可能な範囲で活動を継続・実施している地区もあり素晴らしいと感じております。

(石橋委員)

- ・ 大館自治振興会の主催で地域ゼミナールを11月に開催しました。中学生と地域の私達で、グループごとに地域の良いところ、好きなところなど話し合い、故郷のすばらしさをお互いに感じることができました。

(岡沼委員)

- ・ コロナ禍により当協会の主な事業である八戸市総合体育大会等が今年度も中止となり、また、各地区の体育振興会による運動会も中止となっている状況であります。

昨年開催したスケート競技会も今年度は施設の閉館等により中止となっております。

(平野委員)

- ・ 長引くコロナ禍でゲーム、スマホ、ユーチューブにはまっている大人、子供が多く、決められた時間を守れないでいるようです。「うちもそうだ。みんなそうみたいよ。」と、あまりいい話を周囲のお母さんたちからも聞きません。親が無制限にやっていて、子供だけ制限しても説得力がないと思います。子供を守るため、大人がしっかりしてほしいです。

毎年3月に行われている八戸地区連合防犯協会、女性部長会議が今年も中止となりました。コロナ禍の前の会議では、23地区の女性部長から活動状況やご意見等を発表していただき、参考にして活動していましたが、それもできないでいます。今は地区ごとに地区に合った活動をしていただいています。下校時のパトロール、見守り活動は継続して行っています。

(福嶋委員)

- ・ 家にこもる時間が多くなり、ゲーム等に費やす時間が増えています。

(黒田委員)

- ・ 1月6日(木)、福祉体育館において、令和4年新年「はちのへ郷土かるた大会」を開催することができました。

根城・田面木地区青少協においては、令和版「はちのへ郷土かるた大会」を昨年度に続き、12月26日（日）に開催することができました。根城小、田面木小、江南小の児童、根城中生徒のボランティアにより根城公民館で実施しました。

（田村委員）

- ・ コロナ禍の中、ネットミーティングなどを利用して園長会等を行うようになりました。幼児へのICTの活用と青少年育成をどう図っていくか課題としていきたいと考えています。

（黄綿委員）

- ・ 委員会を構成する関係団体の代表と違い、公募による個人なので、団体としての活動とその情報はありません。

青少年の指導、育成に当たるスタッフが、カウンセリングのハウツーとスキルアップを実習すべきです。こうした内容の企画や講習が必要だと思います。

（加藤委員）

- ・ コロナ禍との関連は不確かですが、本校への入学者は年々増加（特に中学校からの新入学が顕著）しています。

今後とも関係各機関と連携を取りながら、青少年の健全育成に携わっていきたいと思います。

（大村幹事）

- ・ 令和2年に続き、令和3年中における万引きの検挙・補導件数も県内最下位から脱却しております。引き続き、規範意識の向上を図るための施策や継続補導等を進めてまいります。

（山崎幹事）

- ・ インターネット上にわいせつな画像やメッセージを投稿してしまう少年も、盗撮をしてしまう少年も、窃盗で家裁に係属する少年も、その多くは「人とつながりたい」、「人に受け入れてもらいたい」という思いを抱えながら、その方法が分からずにいます。

SNSの世界では、発信する方法が分かりやすく、特に卑猥な発信をすれば、すぐに応答が得られ、フォロワーが増え、自分が認められているという実感がわきます。子ども達が、卑猥な投稿などしなくても、身近な、健全な活動によって自分が社会に認められ、居場所を得られるという体験をすることが、とても大切だと思います。

八戸市青少年問題協議会に参加されている各団体の取組が、今後とも、少しでも多くの子ども達に、親との情緒的な交流を体験させ、社会とのつながりを実感させ、自信を持たせ、自分の居場所があるという安心感を抱かせていただきますようお願いいたします。